

あすぶつなぐ

社会福祉しずおか

2022

1・2

No.847

P06に
登場!

静岡県立大学

学生ボランティアセンター

学生団体の中間支援、ボランティアの紹介や企画、学生の居場所支援などを目的とする大学公認の委員会。主に「たべものカフェ」の運営、学内外のボランティア情報の発信、1dayごみ拾い、春夏に行われる社会貢献系サークルで横のつながりを作る団体フォーラムなどの企画・運営を行う。

〈特集〉

各被災市社協に聞く

令和3年7月大雨災害 被災地レポート

～ 発災から復旧への対応、復興や今後のこと～



編集発行／社会福祉法人静岡県社会福祉協議会

静岡市葵区駿府町1番70号 TEL.054-254-5248 FAX.054-251-7508 ✉ spcsw@shizuoka-wel.jp
http://www.shizuoka-wel.jp 令和4年1月1日発行 1部50円 ※本機関紙は皆さまの会費を充当し発行しております。

Facebook ▶



Instagram ▶



富士市

〈被害状況〉

えのお
江尾地区：床上浸水 23戸、床下浸水 62戸／ボランティア活動人数 100人(7月25日現在)

- 7/3 市に被害状況を確認。須津・浮島地区を中心に、床上床下浸水発生。避難できなかった方を救出活動中との情報が入った。
- 14:45 富士市社協情報共有会議を開催。県内・市内の被害共有、土日の連絡・勤務体制を確認。利用者・職員の安否確認。市、及び県V本部との情報共有。
- 18:00 県災害ボランティア本部情報共有会議開催。地図上での確認で、約200世帯が被災している可能性があることを共有。
- 7/4 水が引いたのを確認後、県V本部から派遣された2人の職員と共に現地へ。被害状況確認と被災者ニーズの聞き取り。市と災害ボランティアセンター開設検討。富士市内のボランティアで対応することを確認し、HPやFacebookで発信。
- 7/5 町内会長との情報共有会議を実施。被災した住宅の基礎の洗浄や床下乾燥の知識がある支援者として、技術系支援団体「レスキューアシスト」を要請。
- 7/6～ 災害ボランティアセンター開設。ボランティア活動開始。町内会長、地元の社会福祉法人美芳会と被災エリアを全戸訪問し、ニーズ調査を実施。
- 7/21～ 災害ボランティアセンター閉所。その後も、継続的に被災者宅を訪問し、困り事を確認ながら復旧活動にあたる。市と災害対応の振り返りの会を実施。市と災害ボランティアセンターに関する連携協定の締結ならびにマニュアル改訂についても協議中。



1. ボランティアが片付けに協力。2. 情報共有会議。3. 各家庭へニーズ調査。

対応を振り返って



住民の声もいただきました

えのお
江尾地区 杉本照美さん(写真左)

過去にも大雨災害を経験していますが、今回は床上浸水被害も出て、高齢者のお宅などは支援を求めています。チラシを見て社協に連絡したら、翌朝すぐ10人以上のボランティアを連れて来てくれたんです。社協が災害時に対応してくれるとは知らず驚くと同時に、本当に助かりました。今後も社協と密に連携を取っていききたいと思いますし、私自身も地域のためにお役に立ちたいです。

富士市社会福祉協議会(災害ボランティア担当)
加藤慎也さん(写真右)

今回の災害を振り返るたび、被災された方々をはじめ、ご支援いただいたみなさんの顔や言葉が浮かびます。発災直後から多くの方に支援の申し出をいただいたり、悩んだときに寄り添ってくださった方々。日頃の「つながり」の大切さを改めて痛感しました。災害対応では土砂出しや濡れた家具の搬出を通じて、被災された方々の不安が少しだけ和らいだり、ほっとした表情を見ることができました。これからも「つながり」を大切に、「協働の力」を深めていきたいと思っています。

富士市社会福祉協議会 被災地区担当(CSW)
上杉洋平さん(写真中央)

この地域を担当するコミュニティソーシャルワーカーとして、被災された方々に少しでも寄り添えたらと思い、町内会や地域包括支援センターをはじめ、多くの方の協力を得ながら活動しました。そして、ボランティアのみなさんの気持ちのこもった支援に対して、被災された方々から多くの感謝の言葉をいただきました。今後も災害時に限らず、「声なき声」を拾うために、地域への関わりを大切にしていきたいと思っています。

令和3年7月大雨災害 被災地レポート

～ 発災から復旧への対応、復興や今後のこと～

連日降り続いた雨により、熱海市をはじめ、沼津市、富士市で大雨による被害が発生。発災当時の状況からどのような対応、支援活動が行われたのか。

そこで得られた気づきや、今後活かしていくことまで、各被災市社会福祉協議会に話を聞きました。

沼津市

〈被害状況〉

全壊1棟(黄瀬川護岸流出による)
市内西部地区：床上浸水 157戸、床下浸水 56戸、その他物件損害 33件
ボランティア活動人数 320人(7月25日現在)

- 7/3 黄瀬川沿いで1件全壊したとの報道は流れていたが、市内の被害の全容が把握できなかった。原地区に住んでいる職員から周辺で被害が出ているという情報が入り、情報収集開始。
- 7/4 静岡県災害ボランティア本部・情報センター(以下、県V本部)からの応援スタッフと一緒に黄瀬川周辺、原地区を中心に現場に入って情報収集。
- 7/5 沼津市が相談窓口を原地区センターに開設し、沼津市社協もセンター内にボランティア相談窓口を設置した。
- 7/7 行政担当者との情報共有の中で沼津市は災害対策本部を設置しないことが判明。市社協で「地域ささえあいセンター」を開設。活動拠点として原地区センター内にサテライトを設置。
- 7/8～ 現地でのボランティア活動開始。浸水した家の床下作業を行う技術系の団体「愛・知・人(あいちじん)」に応援要請。
- 7/22～ 現場の作業ニーズが収束したため、原地区センター内に設置したサテライト機能を沼津市社協の本部(サンウェルぬまづ)に集約。被災後のフォローや日常の見守りを中心に活動継続中。



1.2. ボランティアや技術団体が協力し復旧を目指す。3. ささえあいセンターでのミーティング。

対応を振り返って

沼津市社会福祉協議会 井上公康さん

今回被災した地区は被害に遭ったのが何十年ぶりであって、予想していなかった場所でした。市の災害対策本部が立ち上がらなかったことで、初動で二の足を踏んでしまい、それが大きな反省点です。私は以前原地区を担当していたので、早めに原地区センターで連合自治会長と会うことができました。顔見知りだったことで情報交換ができ、その時点で一番被害が大きいのは原地区周辺だということ

がわかりました。今後、なるべく初動を早くするためには、市と社協、そしてこういった地域の方々と連携できる関係、体制づくりを日頃からしていきたいと考えます。技術系の協力団体も市内で対応できるようにする必要も感じました。また、今回の災害を通じて、お家がゴミ屋敷に近い状況だったり、車いす生活で緊急時に助けが必須の方がいるなど日常的な福祉のニーズも見えてきました。それらを解決するために、ささえあいセンターは継続していく予定です。



【静岡県災害ボランティア本部・情報センター】

静岡県社協では、静岡県ボランティア協会とともに、7月3日に静岡県災害ボランティア本部・情報センターを設置し、県内市町社協や外部支援団体の協力を得て、被災した市社協の後方支援を行った。

支援① 人とモノの支援

熱海市社協、沼津市社協、富士市社協に応援スタッフを派遣。連絡を密にし、現在の状況や今後の対応について情報収集を行い、応援スタッフの派遣やスコップ、一輪車、携帯電話、ドリンク類などの資機材の手配、支援物資の調達など、現地のニーズに応じて人やモノの支援を行った。

支援② 情報共有・情報発信の支援

災害時は関係者同士の迅速な情報共有と、外部への情報発信がカギとなる。今回の災害ではZoomを積極的に活用してオンライン会議を行い、被災地域やボランティアが必要な場所をクラウド上で一元管理と可視化することで、スムーズな情報共

有を実現。ボランティア活動開始に向けて情報発信を頻繁かつ丁寧に行うことによって、スタッフの電話対応の負担を減らすことにもつながった。また、熱海市ではボランティア事前登録と活動仮予約を行うことで、コロナ禍においても現地の状況に合わせたボランティア活動を展開することができた。

ICTを活用した 災害ボランティアセンターの運営

静岡県社協では、サイボウズ株式会社と災害支援協定を締結しており、ICT(情報通信技術)を活用した効率的な運営をサポートしてもらった。3市それぞれに専用ホームページを開設しボランティア活動仮予約人数をグラフで示し、少ない日にちに参加を呼び掛けるなど、データに基づく活動案内を行った。

対応を振り返って

静岡県社会福祉協議会 松浦史紀

このたびの災害において、多くの皆様からのご支援、ご協力に感謝申し上げます。県V本部として、発災初日から県内外の多様な関係機関や支援団体、支援者と連携を密にし、被災地社協の支援を行いました。今回の支援の特徴は、ICTを活用することで、コロナ禍の感染症対策、情報共有、時間短縮、業務省力化などができたことは成果だと思います。しかしながら、ICTの活用はあくまでも

手段であり、目的ではありません。ICTの導入で生みだされた時間を有効に使って、センタースタッフが被災地に出向き、被災された方と丁寧に向き合い声を聴く時間を増やして、被災者を中心とした必要な支援活動を考えていくことが大切だと考えます。今回の経験を活かし県社協として、市町社協、行政、支援関係者、自治会、地域住民等が日ごろから関係性を築き、地元を主体とした連携協働型による災害ボランティアセンターが運営できるように支援をしていきたいと思っています。



題提供者
静岡県社会福祉協議会
地域福祉課 課長

寄附金報告 今回の大雨災害支援のため、多くの寄附金等をいただきました。御支援ありがとうございました。

令和3年7月大雨災害 静岡県災害ボランティア本部・情報センターへの寄附金等一覧

〈寄附金〉		〈支援金〉	
寄附者	金額	他県社協等からの支援	金額
コープこうべ災害緊急支援基金運営委員会様	500,000円	(熊本県) 嘉島町社会福祉協議会様	300,000円
ライオンズクラブ国際協会334-C地区様	5,000,000円	新潟県社会福祉協議会様	100,000円
大阪府豊中市中豊島福祉推進協議会様	50,000円	宮城県社会福祉協議会様	200,000円
豪雨災害支援くれプロジェクト会議様	500,000円	兵庫県社会福祉協議会様	100,000円
		全国社会福祉協議会地域福祉推進委員会様	500,000円

その他、飲料や物品等の寄贈を多数いただいています。

熱海市

〈被害状況〉

伊豆山地区：死者 26名、行方不明 1名、家屋被害 128棟(熱海市報道提供資料)
ボランティア活動人数 1,228人(11月末現在)

- 7/3 地元消防団にも所属する熱海市社協の原さんは、土砂が道に流れ込んでくると連絡を受け、対処に向かう。到着する頃、現地はすでに立ち入り禁止。高齢の方の救助活動を行っていたが、再度土砂が流れてくる音が聞こえるなど恐怖を感じる状況だった。
- 7/4 応援に来た県V本部職員を含め、会議を行い、災害ボランティアセンター立ち上げを検討。
- 7/5 災害ボランティアセンターを開設。ただし、現場はまだ危険な状態でボランティア活動は見通しが立たず、インターネット上でボランティア登録のみ受け付けし、現地調査や情報収集に取り組む。地元町内会長と相談の上、サテライトセンターも設置することとし、チラシを作成して配布し、支援の希望も募った。
- 7/15 ボランティア登録は3,790名、うち熱海市在住が850名。コロナ感染の拡大防止の観点もあり、熱海による復興、を目指し、実際のボランティア活動は市内からの希望者に限って行うことにした。
- 7/21 立入規制が解除されたところから、ボランティア活動を開始。
- 10/1 災害ボランティアセンターは「熱海市復興ボランティアセンター」と名称変更、サテライトセンターも地元の人を雇用、運営することに。



1~3.流れ込んだ土砂をかき出すボランティアの皆さん。4.各団体からの報告を共有。5.熊本から届いたエール。

復興へ向けて

熱海市社会福祉協議会

原 盛輝 さん(写真右)

ボランティアを募ってみて、全国はもちろん市内にこれだけ協力しようしてくれる人がいるとわかったことが宝です。その結果、活動は熱海市内の方をお願いすることにし、被災した住居の片付けなどが終わった後は、それぞれの得意なことを活かした役割を担ってもらって、復興も熱海独自で目指しています。元々、被災者に寄り添う活動は、民生委員をはじめ普段から地元で活動している団体が多かったように思います。被災者同士で話をしたいという要望も出てきているので、復興に向けて民生委員やボランティアに協力してもらいながら懇談会のようなものを開催していきたいと考えています。

熱海市社会福祉協議会常務理事兼事務局長

真野 隆 さん(写真左)

今回の災害を通して、社協としての地域とのつながり、あるいは職員一人ひとりの地域とのつながり、信頼関係の必要性を感じました。県社協や近隣市町社協、支援団体の



方に協力してもらいながらも、「お手伝いはするけれど、熱海が自立した形で取り組んでいくことが大切。あくまでも熱海の人たちで復興していくんだよ」と繰り返し言われ、私たちもそれを強く意識するようになりました。私たち自身がもがきながら進むことが不可欠だと思っています。様々な連携のおかげでここまでできました。このネットワークを今後の復興やほかの地域も含めた支援の充実に活用できるように社協として率先してやっていきたいです。

Information

福祉にまつわる様々なお知らせや取り組みをご紹介します。あなたの暮らしに役立つことがあるかもしれません。


広告を掲載して、イメージアップ・顧客アップを図りませんか？

むすぶつなぐ(社会福祉しずおか) 広告募集

[掲載紙名] 機関紙 むすぶつなぐ(社会福祉しずおか)
 [発行部数] 毎月11,300部発行
 本会会員(県内福祉施設、団体、民生委員児童委員、企業等)、
 県内小中高等学校等
 [掲載回数] 年1回~毎月(年8回発行)まで
 [サイズ] ご希望にあった掲載をお選びいただけます。3タイプのサイズをご用意しております。詳細についてはお問い合わせください。

問合せ先 静岡県社会福祉協議会 福祉企画部地域福祉課
 TEL.054-254-5224

ひとと環境をつなぐ、
メンテナンス
コミュニケーション



株式会社 サン

〒422-8061
 静岡市駿河区森下町1番35号
 静岡MYタワー
 TEL(054)280-2950代
 FAX(054)280-2953
 営業所: 静岡・藤枝・浜松・
 三島・富士
 info@sun-sun-sun.co.jp

施設のメンテナンスを効率良い専門車両で応援します。

カーテン出張クリーニング



特許ランドリー車

カーペット・タイル出張丸洗い



洗浄前
洗浄後

ブラインド・ロールスクリーン
出張クリーニング



株式会社三ナツ 静岡県静岡市葵区産女 1060-1
 フリーダイヤル-ミナワ-にハロー
 0120-370286 fax054-295-9003

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

令和3年度 全国200万人加入!!

https://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険 検索

商品パンフレットはコチラ (ふくしの保険ホームページ)

保険金の種類	プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額	6,500円	
	手術保険金	65,000円	
	入院中の手術	65,000円	
	外来の手術	32,500円	
賠償責任	通院保険金日額	4,000円	
	地震・噴火・津波による死傷	×	○
	賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円

団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増引適用

＜基本プランに加入される方へ＞
 基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。
 ◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。
 ※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行事用保険 送迎サービス補償 福祉サービス総合補償

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
 受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
 この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

福祉の“中の人”

様々な福祉の活動について、具体的な内容や魅力を、実際に活動している人に直撃!リアルな声をお届けします。

case.15
 静岡県立大学
 学生ボランティア
 センター



写真左から:松本花奈さん・中島怜子さん・戸塚愛琳さん・柴田せいあさん・小森理加さん・宇佐美友菜さん 他メンバー(小林愛希さん・武井みな子さん)

「頼り、頼られる関係を社会の中に作る」

今年7月に熱海市で発生した土石流災害支援の募金活動を行った静岡県立大学・ボラセンの皆さん。寄付金と共に温かい気持ちで寄せられた経験からの気づきを伺いました。

Q 今回の募金活動について教えてください。

熱海市の土石流災害をニュースで見ると、私たちに何かできないかと考えました。コロナ禍で直接ボランティアに行くことが難しくなってきたので、身近でできることとして募金活動しようということになったんです。これまでは学内での学生に向けた支援が中心で、外向けの活動は初めてのこと。それほど興味は持ってもらえないかもしれないと思いましたが、103万円という寄付が集まり驚きました。また、飲み物の差し入れやSNSでの拡散、熱海出身の方に励ましの言葉や「熱海のためにありがとう」

という言葉をいただいたり、自分の休日に活動に参加してくださった方もいたり、寄付以外にも様々な応援、協力があり嬉しかったです。

Q 募金活動をして感じたことは?

まず何よりも、熱海出身の方をはじめ、静岡県内の人たちの中心に地元の力になりたいと思っている人がこれほどたくさんいることを実感でき、すごく心強く感じました。私たちはボラセンのミッションは「頼り、頼られる関係を社会の中にたくさん作る」。今回の募金活動ではそれが少し体現できたかなと思いますし、ボランティア活動の可能性も改めて感じています。県大の中にほかに社会貢献活動に取り組む団体があるし、他大学にも同じような団体があるので、これからもっと横のつながりを作り



たいです。

Q ボランティアに興味がある方へメッセージ。

ボランティア活動をしていると「助かってます」「ありがとう」と感謝されることが本当に多いです。自分が頑張った分だけ返ってくるものがあるので、やりがいを感じます。また、人と関わる機会が増えるので、物事の見方が変わって世界が広がることも。気づきも多く、成長につながるはずですよ。ボランティアをやりたいと思っているけれど何をしたいか、どうやっていいかわからないという方、ぜひ一緒に活動しましょう!

福祉の現場からこんにちは!

福祉の現場で働く人からの知恵や工夫、日常的に利用できる情報と、素敵な福産品に出合える場所を紹介します。福祉をより身近に感じるとともに、読者のあなたの生活にもぜひ活用してみてください。

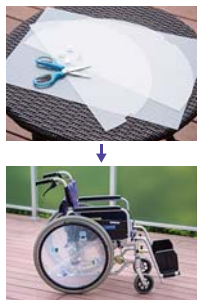
福祉施設職員が伝授! 介護のコツ



社会福祉法人秀生会
富士中央ケアセンター
デイケアリベルタ
野澤祥子さん

ご自宅での介護生活を
安全で快適にするコツ。

車椅子ホイールカバーで巻き込み防止!



自宅での車いす生活にはPPシートなどで作るホイールカバーがオススメ。粘着シートで取り付けしたコードフックをスポークに引っ掛ければOK!利用者本人や、小さな子どもが誤って手などを巻き込むことを防げます。100円ショップやホームセンターで揃う材料で簡単に作れます。

立ち上がる姿勢をつくる準備運動。

股関節が固くなり、座った状態から立ち上がる動作がスムーズにできない人は、こんな準備運動をしてみましょう。

- ①太ももに手を置く→②その手を、膝からすね、足首に向かってすべらせ前傾姿勢に(無理のない範囲で)→③足首～太ももへ手を戻す→④3～5回繰り返し、ゆっくり立ち上がる。

※運動は体調に合わせ、ご自身のペースにて無理のない範囲で行ってください。



福産品を探して

ラポール・タスカ ベンチタイム

(社会福祉法人静岡手をつなぐ育成の会)

静岡市駿河区新川1-7-4 ☎ 054-260-6731

☉ 水・木曜日 11:30～17:00(祝日の場合は休業)



ベンチショコラ(左) 800円、小カップ(右) 210円

平成29年度静岡県知事賞を受賞したベンチショコラは、フランス・ヴァローナ社のビターチョコを使用。しっとりした食感と濃厚な風味が口の中に広がり、贅沢なひと時を楽しめます。そのほか焼き立てパンも、ご利用者の皆さんが心を込めて作っています。購入は事業所内店舗へどうぞ。



— 賛助会員募集のお知らせ —

静岡県社会福祉協議会は、公私の社会福祉関係者と協力しながら、地域福祉の推進を図る民間の組織です。

賛助会員募集

当会の趣旨に賛同いただき、資金的な援助をいただける賛助会員を募集しております。

○ 賛助会員になると・・・

- 機関紙「むすぶつなぐ(社会福祉しずおか)」を年8回、「メールマガジン」を月2回お届けします。
- 県内の社会福祉施設・団体一覧を閲覧できます。
- 所得税、個人住民税、法人税の優遇措置を受けられます。

○ 会費は・・・

個人 1口 2,000円 (何口でもご加入いただけます)
団体 1口 10,000円

○ 申し込み方法は・・・

本会HPから申込用紙をダウンロードして下記まで郵送してください。

申込・問合せ先 静岡県社会福祉協議会 総務部総務課
〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70
TEL.054-254-5248 <http://www.shizuoka-wel.jp/>